



学校だより

えのき

NO. 8 (36)



〈めざす児童像〉

笑顔で なかのよい子
のびのび たくまい子
気づき 考える子

令和2年10月30日

皆野町立皆野小学校

優先順位をつけてみませんか。



1日は24時間しかありません。子供たちは概ねそのうち9時間を学校生活に、9時間を睡眠に、そして夕食や入浴などに1時間を費やすとします。残りは $24 - 9 - 9 - 1 = 5$ 時間ということになります。子供たちは自分の裁量で使うことのできるこの“5時間”をどのようにやりくりしているのでしょうか？

本来ならば、小学生であれば友達とたくさん遊んでほしいです。また、読書や家のお手伝い、生き物の世話なども心の成長には大切なことです。しかしながら、宿題はもちろん塾やスポーツなどの習い事もあります。そうすると“5時間”では不足に、やむなく睡眠時間を削らなければならないような日も出てきます。今の小学生は私たちの頃と比べて一日がかなり忙しく、特に月曜日などは疲れているように見える時があります。もしかすると私たち大人が子供に多くを期待するあまり、知らず知らずのうちに“5時間”以上のものを望んでいるのではないかと考えさせられてしまうのです。

国の方針から授業時数が増え6時間授業の日も多くなりました。さらに質的にはコンピュータや英語、プログラミング学習など新たな内容が追加されるとともに、各教科の内容そのものや道徳、人権、国際理解、職業観といったグローバル的な分野の内容が強化されました。今日の我が国の小学校教育は、量・質ともますます水準の高いものになったと言えます。

かつて私たちが受けてきた教育は、ある程度全てを網羅することを目指していました。それは戦後の働き手不足を補うため「平均的な能力を持つ大人が必要」という社会的背景によるものです。ですが、これから子供たちが生きていく世の中は当時とは変わってきています。自分の得意な事、好きな事、やりがいのある事で社会に貢献するという考え方が必要となります。多様化した社会の中で子供たちが自分に合った道を選択しやすいように教育もより豊富で多様になったと言えます。ですから、それら全てを私たちの頃のように網羅させようとするのはとても困難です。それを求めることによってパンクさせてしまうようなことに繋がっては元も子もありません。

さまざまな事を全て完璧にやろうとするのではなく、「優先順位」をつけてみませんか？元々子供というのは“興味関心の塊”ですから、小さいうちから「あれもやりたい、これもやりたい。」となるのはごく自然の事です。また、「たくさんの事を頑張る」のはこの上なく大切で崇高なことです。しかし、進級や進学する毎に「やらなければならない事」は増え、「求められる質」も高くなっていきます。そうすると「上手に見切りをつける」ことが必要な時も訪れます。私たち大人は子供たちが限られた時間のやりくりを自分で取捨選択できるように支援していくことが大切だと思います。子供たち自身が将来への進む道を見つけ、自分で決めることができるよう周囲の大人で手ほどきをしていきましょう。「何が何でもこれだけは絶対に譲れない事」「人並以上にはできるようにになりたい事」「そこそこ及第点で構わない事」「嫌いや苦手だけどできる範囲で頑張る事」といった具合に軽重をつけて取り組めれば、心も軽くなるし、やりがいや自信、自己肯定感も高まっていきます。

そうは思っている、子供に苦手な事があると心配し、多くの事ができれば安心するのが親心というものです。確かに実社会では「広く浅く」といったオールマイティ的な能力を求められる職業もありますし、一つでも多くのことができればそれだけ将来の可能性が広がるのも間違いありません。しかし、全てで好成績を求められるのは苦しいです。例えば、体操の内村航平選手は種目総合では金メダルですが全種目で完璧なトップというわけではないですね。

最後に子供たちにもお願いです。確かに息抜きは必要ですが、大切な“5時間”をゲームやスマホばかりに費やすのは考えものです。お家の人もとても心配になります。